

【平成29年度戦略的MICE誘致促進事業】

**MICE人材育成業務
MICE 海外先進事例視察研修**

**コーディネート業務
実施報告書**

2018年2月26日

運営受託：株式会社DMC沖縄

【目次】

1. 海外先進地事例研修の目的.....	2
2. タイを目的地として選定した理由.....	2
3. 日程.....	2
4. 訪問先一覧.....	4
5. 参加者一覧.....	5
6. 研修先の特徴と写真記録.....	6
7. 参加者アンケート結果集計.....	16
8. 考察.....	30

<添付資料>

- ① JTB Thailand 意見交換配布資料 a) 「永遠王国『タイ』で MICE を開催し、数え切れない貴重なチャンスを見つけよう！」
- ② JTB Thailand 意見交換配布資料 b) 「THAILAND'S MICE INDUSTRY STRATEGY IN FY2017 (抜粋)」
- ③ 訪問先名刺

1. 海外先進事例視察研修の目的

MICE 先進地の施策、施設（ホテル/会議施設/観光施設）、コンテンツを視察・体験することにより、MICE の主催者がどのような点を考慮しデスティネーションを決定しているか、また参加者が他のデスティネーションでどのような体験をしているのかを知ることで、沖縄のポジショニングを確認する。

また、沖縄県が建設を計画している大型 MICE 施設のスケール感を体感し、開業により齎されるイノベーションへの対応を考えるきっかけを創出する。

本研修を通じて、行政組織からの参加者が今後の沖縄県、市町村での政策立案、また民間事業者については MICE 商品開発に取り組むことができる情報や気づきを持ち帰ることを目的に実施しました。

2. タイを目的地として選定した理由

- 1) 沖縄と似た環境（アジア、亜熱帯、ビーチリゾートと都市が近接）であること。
- 2) 常に競合先となるデスティネーションであること。
- 3) 行政外郭機関、民間組織のマーケティング活動とプロモーション活動が参考になるデスティネーションであること。（TCEB、TICA 等）
- 4) 先進事例として学習効果のあるデスティネーションであること。

①先進事例

- ・ 沖縄のサプライヤーが参考にできるチームビルディングプログラム
（ホテルやレストランが提供するプログラムの体験）
- ・ 大型ナイトエンターテインメント（Siam Niramit 等）
- ・ クルーズを活用したエンターテインメント
（チャオプラヤ川沿いの街づくり：水上からの景観）

②施策の先進事例

- ・ MICE ブランディングの先進事例「Thailand Connect」
- ・ TCEB のマーケティング
- ・ 入国審査 MICE 優先レーン

③都市構造

- ・ 都市型（バンコク市内）とリゾート型（パタヤ）の比較ができる

④大型 MICE 施設のスケールと街づくりを体感できる

- ・ IMPACT

3. 日程

参加者一行：2017年1月15日（月）～19日（金）

コーディネーター：2017年1月13日（土）～20日（土）

	参加者	コーディネーター
1月13日 （土）		11:55 那覇発（CI 1219） 12:35 台北着 13:55 台北発（CI 835） 16:45 バンコク着 パタヤ移動・行程チェック

1月14日 (日)		09:00 事前調整・行程チェック バンコク移動・行程変更手配
1月15日 (月)	09:00 空港集合 11:55 那覇発 (CI 1219) 12:35 台北着 13:55 台北発 (CI 835) 16:45 バンコク着/パタヤ移動 18:00 パタヤ着	09:00 事前調整・行程チェック 16:45 バンコク空港にて出迎え・合流
1月16日 (火)	08:30 ホテル出発 10:00 Royal Cliff Hotel・PEACH 視察 11:30 Royal Cliff Hotel・PEACH 発 14:00 Hard Rock Hotel Pattaya 着・見学 15:00 Hard Rock Hotel Pattaya チームビルディングパッケージ体験開始 20:00 Hard Rock Hotel Pattaya 発 22:00 バンコクホテル着	
1月17日 (水)	09:00 ホテル出発 09:40 IMPACT Exhibition & Convention Center 視察 11:20 IMPACT Exhibition & Convention Center 発 12:00 Jim Thompson House ユニークベニューミーティングパッケージ体験視察 13:50 Jim Thompson House 発 14:00 意見交換「タイでのMICE受入れ状況について」@JTB Thailand (TICAメンバー) 16:00 JTB Thailand 発 17:00 Siam Niramit 着・見学 22:00 Siam Niramit 発 22:30 バンコクホテル着	
1月18日 (木)	08:00 ホテル出発 08:30 Blue Elephant 着 クッキングアクティビティ体験 13:00 Blue Elephant 発 14:00 Marriott Marques Queen's Park 着・視察 15:00 Marriott Marques Queen's Park 発 16:00 Bangkok Convention Centre at Centralworld 着・視察 17:00 Bangkok Convention Centre at Centralworld 発 18:30 Anantara Bangkok Riverside クルーズアクティビティ体験 21:30 Anantara Bangkok Riverside 発 22:00 バンコクホテル着	
1月19日 (金)	07:30 バンコクホテル発 08:30 スワンナプーム空港着 11:10 バンコク発 (CI 834) 15:40 台北着 17:20 台北発 19:45 那覇着	07:30 バンコクホテル発 08:30 スワンナプーム空港着 09:00 チェックインサポート見送り 11:00 JTB Thailand フィードバック打合せ 15:00 Blue Elephant フィードバック打合せ
1月20日 (土)		07:30 バンコクホテル発 08:30 スワンナプーム空港着 11:10 バンコク発 (CI 834) 15:40 台北着 17:20 台北発 19:45 那覇着

4. 訪問先一覧

	種別	施設名称/訪問先	概要
1月16日(火)			
	ホテル	Royal Cliff Hotel	<ul style="list-style-type: none"> ・ PEACH と一体的に開発され、4つの特徴あるホテルを運営している。 ・ MICE 利用者への提供便益を具体的に知る。
	会議施設	PEACH	<ul style="list-style-type: none"> ・ バンコク以外では最大のコンベンションホール。 ・ 大型 MICE 施設の多目的ホールと同じ規模感を持つホールがある。
	ホテル	Hard Rock Hotel Pattaya	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界的なチェーンホテルとして一貫したテーマを提供している。ホテル全体としてどのようにテーマを具体化しているかを知る。
	体験プログラム	Hard Rock Hotel Pattaya	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄でも導入可能性のある屋外型のプログラムコンテンツを体験する。
1月17日(水)			
	会議施設	IMPACT Exhibition & Convention Center	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設(ホテル/会議場/展示ホール)が一体となった大型 MICE 施設開発を知る。 ・ 大型 MICE 施設の展示ホールとほぼ同じ展示面積を持つ展示場を体感する。
	ユニークベニュー	Jim Thompson House	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化施設のユニークベニューとしての運用を体験する。 ・ 小規模施設における MICE 対応の事例を体験する。
	意見交換	「タイでの MICE 受入状況について」 JTB Thailand	<ul style="list-style-type: none"> ・ タイでの MICE 受入れ状況を知る。 ・ TCEB、TICA の取組を知る。 ・ 沖縄県の取り組み状況を再確認する。
	観光施設	Siam Niramit	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜のアクティビティとして選ばれる観光施設を体験し、沖縄でのコンテンツ可能性を調査する。
1月17日(水)			
	体験プログラム/観光施設	Blue Elephant	<ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄でも導入可能性のある屋内型/地域連携のプログラムコンテンツを体験する。 ・ 観光施設(レストラン)と体験プログラムの相乗効果を知る。
	ホテル	Marriott Marques Queen's Park	<ul style="list-style-type: none"> ・ MICE に特化したホテルの提供サービスを知る。
	会議施設	Bangkok Convention Centre at Centralworld	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設(ホテル/会議場/展示ホール)が一体となった大型 MICE 施設開発を知る。
	観光施設	Anantara Bangkok Riverside	<ul style="list-style-type: none"> ・ チャオプラヤ川全体を観光向けベニューとして利用しており、クルーズは夜のアクティビティとしてその最も選られるコンテンツ。 ・ 川の両サイドの観光施設の見せ方、開発の仕方を体感する。

6. 研修先の特徴と写真記録

コーディネーター 現地確認・事前調整・事後処理業務の報告

1月13日(土)、14日(日)、15日(月)、19日(金)、

現地確認・事前調整

《1月13日(土)》

- ・スワンナプーム空港到着後、現地ガイドと合流し、現地確認行程の打合せ
- ・スワンナプーム空港からパタヤまでの所要時間と道路状況を確認
- ・Hard Rock Hotel Pattaya にて、チームビルディングパッケージの内容と会場の確認
- ・パタヤ宿泊先 (Mercure Pattaya Hotel) にてバス動線と団体チェックイン方法の確認
- ・宿泊先周辺のコンビニ・スーパー・土産物・レストラン等の営業状況と安全活動区域の確認

《1月14日(日)》

- ・The Royal Cliff Hotels & PEACH にて、視察順路と説明内容の確認・調整
- ・2日目昼食会場のバス動線・待機場所と食事内容の調整
- ・Hard Rock Hotel Pattaya にて、昼間の会場確認
- ・パタヤからバンコクへの所要時間と道路状況を確認
- ・Bangkok Convention Centre at Central World にて、視察順路と説明内容の確認・調整
- ・Anantara Bangkok Reverside への所要時間・道路状況・クルーズアクティビティの確認
- ・Siam Niramit にて、施設内順路と各種アトラクションのスケジュール確認
- ・バンコク宿泊先 (Furama Silom Hotel) にてバス動線と団体チェックイン方法の確認
- ・宿泊先周辺のコンビニ・スーパー・土産物・レストラン等の営業状況と安全活動区域の確認

《1月15日(月)》

- ・通訳へのブリーフィング
- ・Blue Elephant への所要時間・道路状況の確認
- ・Blue Elephant にて、タイ料理体験アクティビティの内容確認・調整
- ・IMPACT にて、視察順路とプレゼン内容の確認・調整
 - ※会場が広く視察に時間を要するため、視察途中で立ち止まっただけの説明が難しく、パナガイド(無線送受信機による案内ツール)を用意することにした。
- ・Marriott Marques Queen's Park にて、視察順路と説明内容の確認・調整
- ・JTB Thailand にて、行程・機材等の修正・手配打合せと意見交換会の内容確認・調整
- ・Jim Thompson House にて、ミーティングパッケージの内容と会場の確認
- ・スワンナプーム空港にて、参加者を出迎え・合流

《変更内容》

- ・意見交換先として予定していた Thai Convention & Visitors Bureau が業務都合により対応できないとの連絡があり、TICA (Thailand Incentive and Convention Association) のメンバーであり、タイでの MICE 受入れを担当されている JTB Thailand 鬼頭部長にお話をいただくことにした。
- ・IMPACT での検証により、パナガイドの必要性が確認できたので、バンコクにおける各視察先で、パナガイドを使用することにした。

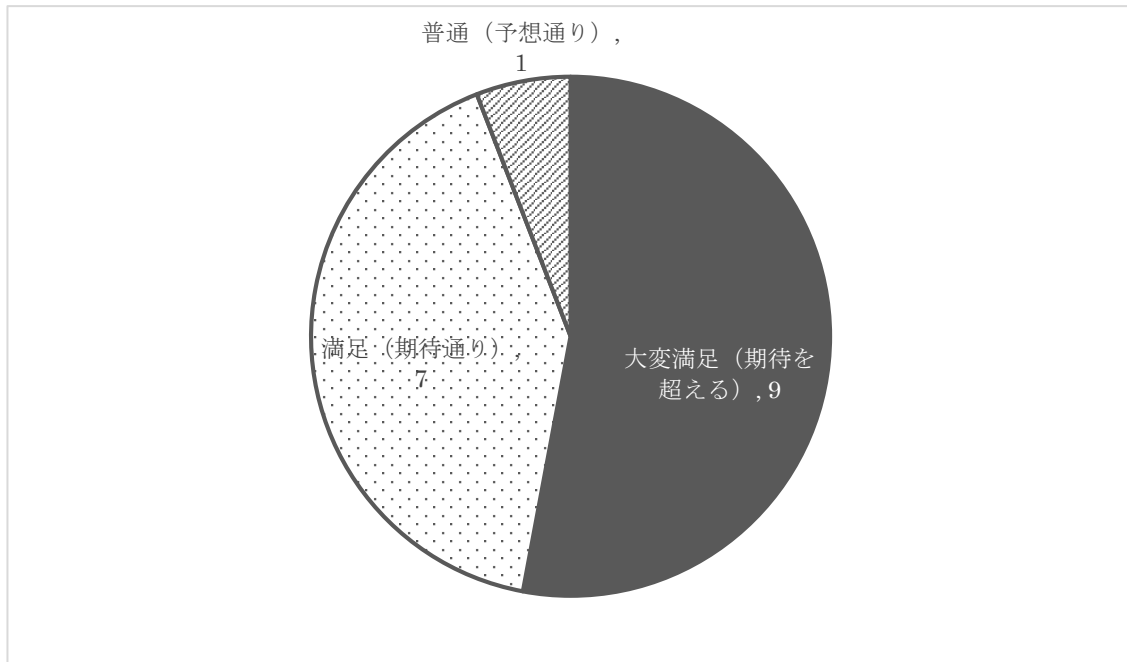
事後処理

《1月19日(金)》

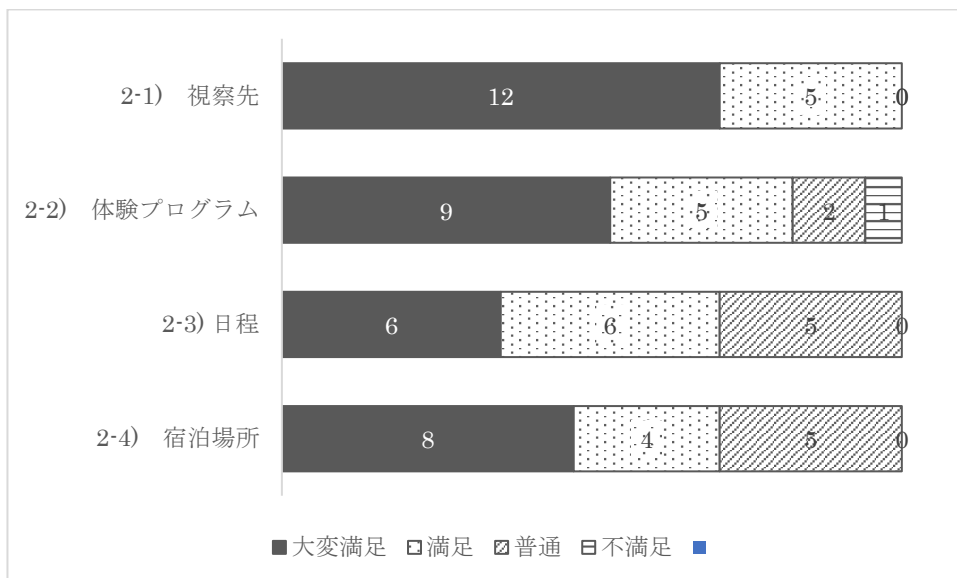
- ・スワンナプーム空港にて、参加者のチェックインサポート・見送り
- ・JTB Thailand にて、精算内容の確認とフィードバック打合せ
- ・Blue Elephant にて、フィードバック打合せ

7. 参加者アンケート結果集計

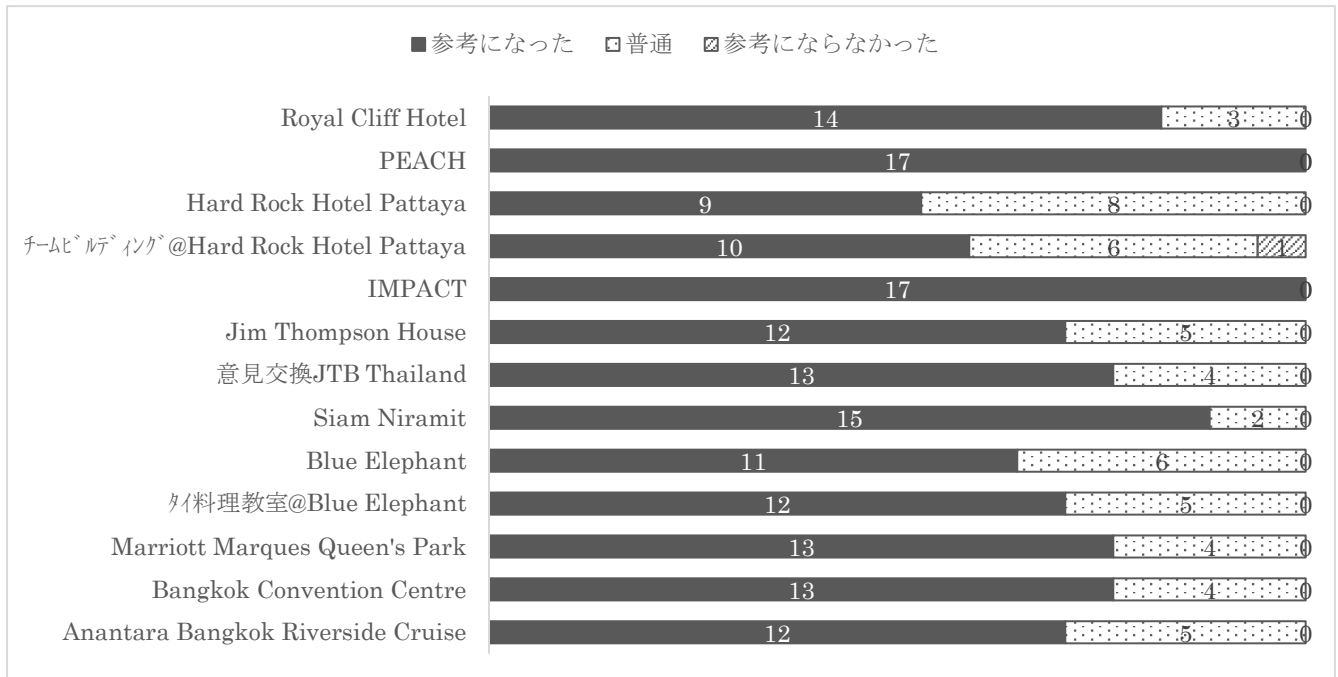
1) 今回の先進事例視察研修に参加されていたいかがでしたか？（どれかひとつお選びください）



2) 各項目についての評価をお教えてください。(各項目についてあてはまるところに○をつけてください。)



3) 各視察先についてのご感想をお教えてください。(参考になった◎/普通○/参考にならなかった×でご記入ください)



4) 特に参考になった/見て・聞いて良かった点を視察先の名前と共に教えてください。

MICE サプライヤー参加者

【Blue Elephant】

正直に言いますと、何故外国まで料理をしなくてはならないのかと思っていました。タイ料理自体も苦手だったので、あまり期待はしておりませんでした。しかしながら、実際体験してみるとさまざまな所で、Blue Elephant 側が色々な工夫をしていて、配慮している事が体感できました。(例：調味料を事前に使う分だけ個別に用意している。手元カメラの映像をモニターで写し、実際に行程を見せてから一品一品調理実習を行う。洗い物等、料理をするうえで面倒な事は一切省いている等)そして何よりも楽しかったです。文化の一つである“食”に触れる事により、タイという国の理解度が深まったと実感しました。材料もわかるようになりタイ料理への苦手意識がなくなりました。

【ホテル】

今回の視察では私がホテル業であることから、そうした目線から見させていただきました。ランチでは品数は4品～5品と1時間程度で出されていて、地元食材を使った商品として、自社でも商品化が図れるものと考えております。またマリオットでは、実際に研修されている会場のロビーにデザートが置かれており、ブレイク時間の取り方まで気を使われておりました。今回の視察で一番感じたのは、ゲストの目的・成果を一番に考え、サービスを提供していること、ゲストに寄り添った対応が強く感じられました。

【Hard Rock Hotel】

ハードロックをテーマにしたホテルという事でフロント周りからロビー、ショップ、プールや客室に至るまで全てにハードロックに対するこだわりがあり、テーマ性を強く主張することでそのホテルの滞在価値が高まるという事を感じました。

またホテルのスタッフそれぞれがエンターテイナーであり、通常業務としてチームビルディングプログラムのインストラクターも行ってた。

ホテルスタッフがそこまでやるのか？と驚きと共に、ホテル内でのエンターテインメントを増やしていくことでお客様の滞在の満足度が上がると感じました。

【Anantara Bangkok Riverside】

リバーサイドは高層ビルが多く立ち並び、街の照明が華やかで景観が良いのでナイトクルーズ（船上パーティー）は最高でした。多くのクルーズ船が航行しており、タイを代表する観光のテーマの一つだと感じた。

船の上で五つ星ホテルの食事を楽しむというテーマも素晴らしく、最高の雰囲気と美味しい食事はインパクト大でした。

【PEACH、IMPACT Exhibition & Convention Center】

コンベンション施設の PEACH や IMPACT Exhibition & Convention Center などの訪問では担当者様の方から運営方法など直接話を伺う事ができ、貴重な経験を得ることができました。

【Hard Rock Hotel、Blue Elephant】

又、体験プログラムのチームビルディングやタイ料理教室では、実際に体験をし、沖縄ではどのようなプログラムでお客様に楽しんで頂けるのか、沖縄では何が出来るのかをより近くで考えることができました。

視察対応の仕方については、PEACH、IMPACT、Jim Thompson House はとても参考になった。

【PEACH】

会場視察の前に、ミーティングルームを使ってプレゼンを聞くことができた。

ミーティングルームのテーブルセッティング（パンフレット、メモパット、リフレッシュメント、各資料のデータ提供）やマイク、イスの配置など、実際にゲストが利用する形が再現され、ゲスト目線で会場を体感することができた。

プレゼン内容についても、施設概要、演出方法（パーティー、イベント）など、具体的な事例を見ることができ、今後自分たちがお客様へ提案する際のヒントとなった。

PEACH に関しては立地条件としてビーチリゾートにあり、ホテル、コンベンションホールが同じ敷地内に存在すること、主要空港からのアクセスに時間がかかるという点で万国津梁館と共通する部分があり、デメリットをどのようにカバーしているのか気になったが、ビーチリゾートならではの充実したアクティビティや、プールサイドの屋外空間を活かしたダイナミックなパーティースタイルがあり、時間をかけても移動する価値のある施設だということを十分に確認することができた。

5年後には新幹線開通の計画もあるとのことだったため、今後更に需要が増えるのではないかと思う。

【IMPACT Exhibition & Convention Center】

あれだけ大きな施設で数多くの催事があると思うが、私たちの視察について団体名を大型画面に表記したり、急な時間変更等にも快く対応してくださるスタッフの方々の対応がとてもよかった。

今後自分が視察対応する際にも団体名の表記、映像のプレゼン資料（ショートバージョン、ロングバージョンなど）は作成していつでもご案内できるように用意しておきたい。

【Jim Thompson House】

こちらガイドの方の対応がとても参考になった。まず言語対応が日本語、英語、中国語、フランス語の多言語で対応しており、流暢な日本語で全く違和感がなく聞く事ができた。また美術品一つ一つにストーリーがあり、解説を聞くだけで話に引き込まれていった。施設自体も素晴らしかったが、それ以上にガイドの方の対応がとてもよかった。

これまで自分が視察を対応する際には、施設の概要、設備スペックの説明ばかりに気を取られて、パンフレット通りのことしか説明していなかったため、今後はそれに付随する歴史や情報などを入れるとより良い印象を持って頂けるのではないかと感じた。

市町村（国際会議観光都市）参加者

【ホテル、コンベンション施設】

タイで視察した施設は、非常に大きく豪華な施設が揃っており、圧倒させられるばかりだった。特に IMPACT Exhibition & Convention Center は、施設内に 2 つのホテルを有し、約 900 部屋で大規模な国際会議にも対応が可能、施設内で飲食・買い物・両替ができるとのこと。見たこともないような大きな会議会場だけではなく、施設内で何でもできてしまうような環境が出来上がっている。

沖縄市はスポーツ合宿を多く受け入れているが、宿泊施設内に大人数での食事やミーティングで利用できるバンケットがないことがよく課題になっており、今後、新たな施設ができる際には、ぜひ求めていきたい。

今回の視察ではどの施設も大規模過ぎて、どう参考にしていけばいいか正直悩むが、沖縄市も 1 万人規模の多目的アリーナの計画があり、多くのお客様に楽しんでいただける、イベント主催者が求める利用しやすい施設を準備していきたい。

【Jim Thompson House】

タイの伝統的な家と様々な美術品を、ガイドの分かりやすい解説によって楽しむことができ、非常に良かった。多言語でタイ文化や歴史等を学ぶことができた。多言語での対応、説明できる知識など、人材育成の重要性を感じた。この施設の中に様々な国の観光客がいて、一緒に見学を楽しんでいることに不思議な感覚があったが、独特な雰囲気が良かった。

【Hard Rock Hotel】

チームビルディングは、チームみんなが自然と交流し、楽しみながら課題に取り組むことができるメニューだった。特別な準備が必要というわけではなく、すぐに真似できそうな取組だった。沖縄市の東南植物楽園でもチームビルディングメニューを提供しており、施設の特徴や強みを生かしたメニューを充実させ、上手に PR することが必要だと感じた。

【Blue Elephant】

この視察では豪華な施設を見学することが多い中、Blue Elephant の市場回りでは、食材の解説や地元ドリンク体験など、地元の方の生活に近い体験ができたと思う。お料理教室は参加型のエンターテイメントに参加しているような気分で、バタバタとしながらも非常に楽しむことができた。お料理や食事はもちろん満足したが、明るい黄色の西洋風建物で、室内も素敵なシャンデリアやテーブルセッティングが施され、女性が嬉しいコンテンツだった。

【Siam Niramit】

タイの伝統芸能が盛りだくさんのショーとして楽しむことができた。施設内には、レストランやお土産を購入できるお店もあり、待ち時間も楽しむことができる。象乗り体験や綺麗な衣装の女性もいてフォトスポットも多く、観光客が喜ぶ施設であることは感じた。

沖縄市にも「綾庭の宴」という沖縄の伝統芸能エンターテインメントがあり、規模は比較にならないが、内容としては見劣りしないのではないかと感じた。観光メニューとして多くの方に認識してもらえるようしっかり PR していきたい。

【Anantarra Bangkok Riverside】

チャオプラヤ川でのディナークルーズは、おいしいタイ料理はもちろん、川沿いのイルミネーションを楽しむことができた。川沿いの皆さんが協力するからこそ、このクルーズが成立す

る。観光地として、多くの観光客に来てもらい、楽しんでもらうためには、エリアで連携して取り組むおもてなしが大切。

【各ホテル】

見学した各ホテルは宿泊施設にコンベンション施設が併設されており、数千名以上が収容可能という圧倒的な規模を誇っている。本市においては、年内に移転予定の沖縄少年院、女子学園跡地にホテル誘致の意向もあるが、宿泊施設のみならず、バンケットルームを併設した施設整備が必要であることを改めて痛感した。

【PEACH】

担当者の Mr.Shaine Sakib に説明を受け施設を案内頂いた。施設の魅力を伝えるためには、紙媒体のみならず、映像資料も必要であることを痛感した(その全データを USB でも頂いた)。また、M I C E 誘致のために、タイ政府、パタヤ市も支援しているとのことであった。終了後、同氏にお礼を述べるとともに沖縄市のパンフレットとお土産をお渡ししたが、そういうパンフレット等の資料がM I C E 誘致には特に重要だとアドバイス頂いた。

【Hard Rock Hotel】

その名もズバリのホテルであり、ホテルのフロントをはじめとする施設内や客室内には随所に著名なミュージシャンの衣装等が展示されていた。室内もミュージシャンのイラスト(肖像画)が飾られているなどコンセプトは徹底している。

施設見学ののちにホテルが提供するチームビルディング研修を受けた。多彩なアクティビティにより参加者同士もすぐに打ち解け、チームとしての一体感が生まれることを実感した。チームビルディングも非常に有意義なアクティビティであり、本市では東南植物楽園が提供しているが、まだ実績は少ないため、さらに積極的に PR していく必要がある。同ホテルの研修担当スタッフは、時折ユーモアを交えながら参加者にリラックスした雰囲気を作り出すなど、若いながらも相当なノウハウを有していることが伺えた。そうした社員教育、人材育成も今後さらに重要になってくると思われる。

【Jim Thompson House】

Jim Thompson House はタイの古い建築様式による非常にユニークな施設となっており多くの欧米人が来訪していた。米国人の Jim Thompson は、退役後、タイに永住し、タイシルクを広めた人物としても知られる。本市においても、知花花織等、伝統工芸を観せる施設、あるいはそれぞれの工房を巡るツアーなどもユニークベニューとしてポテンシャルが高いと考える。また、そうした施設に欧米人が来るということは、本市の東南植物楽園においても、台湾出身者が開園したという同園のストーリーをきちんと説明することができれば、台湾を中心としたアジア圏のインバウンド客にも十分 PR できるだろう(実際に東南植物楽園のランチビュッフェは多くの観光客を惹きつけている)。

【Blue Elephant】

黄色い西洋風の外観と明るく清潔な店内は周囲からも目立っている。料理教室の前には市民の台所である市場も見学したが、市場を案内した担当スタッフによると「昨日も沖縄の女性2人に対応した」ということであった。料理教室では調味料を混ぜ、焼く、といった一連の作業を講師が分かりやすく説明し、その後、材料等がすべて用意されている調理室に移り実際に料理をした。普段調理をしていない方でもできるように工夫がされている。以前、沖縄市でも沖縄そばの麺づくり体験の問い合わせがあったが、各店舗は麺を製麺所から購入しているためどこにも応じて頂けなかった(K-POP ミュージシャンのKさんが音市場でファンクラブライブをした際にエージェントから要望があった)。結局私の自宅で一緒に麺づくりをしたが、難しい料理でなくても、料理体験ができる施設があればユニークベニューとして利用される可能性があると思われる(沖縄市ではグランメールリゾートが巻き寿司体験を提供し、インバウンド客に人気だと伺っている)。

【Siam Niramit】

タイの古典舞踊によるショーであり、2,000席の大きな劇場は世界最大としてギネス登録されているという。舞台上に川が流れたり、雨が降ったりという演出にも驚くが、圧倒的な出演

者数は、沖縄の「杜の賑わい」のようでもある。しかし、全体としてはストーリー性に乏しくショーとしての完成度は期待したほどではなかった。逆に、本市のエンターテイメント「綾庭（あやみや）の宴」も、決して見劣りしないと思った。あるいは伝統芸能も観光客向けのナイトコンテンツとして提供する可能性があることを感じた。また、Siam Niramit の価格であるが、ウェブサイトによると、ショーそのものも 1,000 バーツ（3,800 円）以上はしているようであり決して安い価格設定ではない。しかし、安くなくても充分勝負できることを認識した。

【PEACH 、IMPACT Exhibition & Convention Center】

大型 MICE 誘致をするため、施設自体が桁違いでスケールが大きく、またさまざまなシチュエーションに対応できるように施設整備がされていた。また、ソフト的にも国籍によって料理の対応はもちろん、テーブルクロスを変更できるようにするなど細かい所の対応も参考になった。アフター MICE についても観光地タイの魅力をかき立て施設周辺でさまざまな魅力ある取組が可能であり、施設規模と周辺の観光との相乗効果で大きな MICE 誘致としての魅力発信となっていることが実感できた。

【Hard Rock Hotel】

チームビルディングを行程の最初の段階で行うことは、とても有意義だと感じた。企業の MICE では関連会社等、初対面の人も多いと思われるので、メンバー同士で親しくなるいい内容だと思った。

【Blue Elephant】

タイの食文化を学ぶだけでなく、料理を作るというイベント性もあり、また、観光を兼ねた市場見学を通して地域食材にふれるというのはとても有意義で良かった。またその食材を市場から仕入れているのであれば地域にお金を落とす仕組みとしてもとても参考になった。

【PEACH】

MICE の受入への取組、現状、タイ政府や行政との連携について直接意見を聞くことができよかった。行政として視察に参加しているので、今後 MICE に取り組む際、事業所とどう連携をとるかなど参考になった。また、今後の MICE 事業への需要の見込みなども聞くことができ、よかった。

【JTB Thailand】

タイにおける MICE の現状、タイ国内外の旅行需要について聞くことができよかった。観光立国のタイでは MICE を観光として推し進めていくだけでは弱いため、エキシビジョンとコンベンションにフォーカスして PR をしていく戦略など、MICE 開催を獲得するヒントが得られた。タイから日本への MICE 需要の見込み、求められる分野についても知ることができた。また、熱帯地域であるタイから沖縄への旅行需要については、寒い地域に比べると劣るが、リピーターが多い現状を教えていただき、リピーターからの需要を観光誘客につながると感じた。

【Blue Elephant】

修学旅行の受入など、MICE 以外の体験型の観光コンテンツとしても参考になりそうなプログラムでした。（料理、モノレールへの乗車や、市場の見学など）

【PEACH 、IMPACT Exhibition & Convention Center】

PEACH と IMPACT Exhibition & Convention Center 等コンベンション施設の視察は大変参考になりました。これまで、漠然と MICE 施設は、大きな会議場があって会議を行うという印象でしかありませんでしたが、分科会などにも対応できるよう個別の会議室を併設し、導線の確保やロビーも休憩用のスナックの提供の場所とするなど効果的に活用する様子を実際に見ることで具体的なイメージができました。

【Royal Cliff Hotel、Marriott Marques Queen's Park、PEACH、IMPACT Exhibition & Convention Center のホテル】

また、Royal Cliff Hotel、Marriott Marques Queen's Park や PEACH、IMPACT Exhibition & Convention Center のホテルなど、グレードの高いホテルが MICE 施設と併設されていることも重要なポイントであると感じました。ホテル内には、スポーツ施設や子どもを預かってもらえる Kids Room などが充実しており、MICE で訪れる方々が泊まるだけのホテルではなく、滞在中、快適に過ごせることは、宿泊数、消費額の増が見込まれ、ひいては観光収入の増につながるものだと思います。

【Siam Niramit】

さらに、Siam Niramit でのタイ王国の歴史を伝えるショーは、年齢を問わず楽しめるコンテンツだったと思います。沖縄では、家族で楽しめる夜の観光エンターテイメントが少ないと言われていますが、このような、踊りやショーは、言語の介在が最小限で対応できるものであり、沖縄においても検討できるのではないかと感じました。

【Anantarra Bangkok Riverside】

Anantarra Bangkok Riverside のリバークルーズは、市街地の中を川が流れているという地理的条件を活用した観光コンテンツで、川沿いのホテルやレストラン、寺院がライトアップされ、食事とともに景色も楽しめました。逆に、川沿いのホテルやレストランからは、川面に浮かぶクルーズ船の往来や明かりを楽しむこともでき、相乗効果が期待できると思いました。沖縄では、クルーズというとはやはり海ということになりますが、食事を楽しみながら、船上からの花火ショーの観覧など、交通渋滞を避け、ゆっくり過ごせるコンテンツについても取り組んでいく必要があるのではないかと感じました。

【Jim Thompson House】

本市にも識名園などの施設があり、観光分野の視点から文化財の活用が言われているが、実際は保存の観点から、なかなかユニークベニューとして活用できていない現状である。

しかし、この施設は建物や貴重な美術品の保存と観光地としての活用が上手く行われているように見受けられた。

観光地として活用することにより収益が見込め、その収益をもとに文化財の保存・維持や施設の整備・改修だけでなく、常駐ガイドの雇用等にも繋がると考えられるため、県内の文化財施設の運営方法の見直し等検討していく必要があるのではないかと考えた。

【Siam Niramit】

琉球舞踊、組踊、エイサー、空手など、沖縄は独自のエンターテイメントを有しているが常設の施設や演目がなく、観光客が家族で楽しめるナイトエンターテイメントが不足していると言われている。

旅行先の文化・芸能を求める観光客は多いと思われるので、沖縄の伝統芸能が楽しめる機会の確保が必要だと再認識させられた。

【Marriott Marques Queen's Park】

宿泊施設内で、MICE 施設・スポーツ等のアクティビティ施設が、対応できている状況は素晴らしいと感じた。

【PEACH、IMPACT Exhibition & Convention Center】

民間主導での MICE 施設の運営ということに驚いたが、民間でこそ可能な運営方法であると感じた。

-
- ・ 宿泊施設と MICE 施設、ビーチ、スポーツなどのアクティビティ施設が一体となっており、地域の観光以外を施設内でほとんど完結できる点がすごく良かった。
 - ・ 民間によって MICE 施設の運営されている。日本の場合、(自分の認識だと)ほとんど行政により施設建設され、運営されるか、民間による指定管理。行政による運営だと公金を投じている関係から様々なしぼりがあり、なかなか機動的に動けないが、民間だと様々な
-

事を機動的に動けると感じた。

→民間による投資で MICE 施設のみでの運営だと経営上、厳しいとも感じたが、前述のとおり、宿泊施設やビーチ、様々なアクティビティ施設との相乗効果で運営が成立しているのだろうと感じた（現場で質問をしたかったのですが、赤字かもしれないと思うと聞きにくかったです…）。

- ・ 施設の規模、インテリアなどが素晴らしかった。聞いたところ地震がないとのことでこのような設計やインテリアが可能なのだろうと感じた。
- ・ 海外からの外国人の受入れについて、国全体として、かなり慣れているように感じました。言葉でも英語や片言の日本語なども聞かれたし、お店によっては円をパーツに換えてくれたところもありました（空港より換金率は良かった）。沖縄だと外国人に対応できる店がまだまだ少ないように思い、行政の立場としてどのようにインバウンド対応ができるか自分自身の意識を高めることができました。

県・OCVB 参加者

【IMPACT Exhibition & Convention Center】

規模、市街地からの距離、交通アクセス等を実際に体感する事で、大型 MICE 施設の活用イメージができた。

【IMPACT Exhibition & Convention Center】

アジア最大級の展示場 IMPACT Exhibition & Convention Center を視察できて良かった。日本では感じる事の出来ない大きさだと思うのでよかった。

【Royal Cliff Hotel / PEACH】

Royal Cliff Hotel と PEACH のリゾート MICE を視察できたので良かった。ホテル経営企業が MICE 施設も運営していることに驚いた。

【Anantarra Bangkok Riverside】

Anantarra Bangkok Riverside のディナーはチャオプラヤ川は綺麗ではなかったが、メニューとしては良かった。沖縄の綺麗な海でできたらいい。

【IMPACT Exhibition & Convention Center】

今回視察したどの大型 MICE 施設も、公的資金は入っておらず、すべて民間資本で運営していることと規模の大きさに驚いた。その中でも、大型コンベンション施設の IMPACT は、2 万㎡のホールを 3 つ連結し、最大 6 万㎡で、パーティーで 42000 人収容可能なホールを所有していた。各ホールの広さは当然ながら、それに伴いロビーも十分な広さを設けていた。また、各建物ごとに立体駐車場が設けられていたり、すべての建物が屋内の通路で連結され、外に出ずに隣接する建物に移動できたりなど、機能的に設計されていた。さらには、ドアや柱、壁面、シャンデリアの装飾など、いろいろなところにデザインが施され、ラグジュアリー感が感じられた。

ロビーでは超大型モニターで、歓迎のメッセージや企業名を表示したりすることも可能。すべての点において、沖縄の施設と比較するとスケールが大きすぎると感じた。

今後、沖縄に大型 MICE 施設が出来た場合には、これらの設備、機能などが当然に求められてくる要素になるのだろうと思う。

【Royal Cliff Hotel/PEACH】

パタヤはバンコクや空港からも距離があるというデメリットがあるものの、そのコンパクトなエリアの中でも歩いて行ける範囲に複数のクラスのホテルや大規模コンベンション施設があるという点は大変 MICE 向けだと感じました。同じビーチリゾートとして売り出している沖縄としても、その売り出し方やコンベンションエリアの形成イメージがわき大変参考になりました。

【Blue Elephant】

ただ調理するだけでなく、地元の電車に乗って地元の市場に食材を買いに行くという個人旅行ではなかなか体験できないリアルな地元の生活に触れるという内容がとても楽しく、海外からの旅行客受けするコンテンツだと思います。沖縄独自の料理や文化、モノレールなどを駆使してもできる体験なのではないかと感じました。

【Siam Niramit】

一つの施設内でショー劇場や定番お土産店、大規模団体受入可能なレストランなどの設備が完備されている点は、数百人単位で動く MICE 団体には大変ありがたいところだと思います。多数の大型バスが駐車可能な駐車場も大切なポイントだと思います。中でもミュージカルショーは本当に圧巻で、2時間があつという間に感じる充実内容でした。国の歴史や文化という難しいテーマを明るく楽しく飽きずに、そしてほぼノンバーバルで伝えることができる内容は、随所に様々な工夫が見え、大変勉強になりました。幅広い団体で楽しめるナイトエンタメが少ない沖縄としては、是非あの規模のものを作って提供できたらと思いました。

- 5) 自由表記（自分の業務にこの研修成果をどのように活かしたいかを、視察研修に関するご感想とともにご記入ください。必要に応じてスペースを増やしてください。）

MICE サプライヤー参加者

研修期間は長いと思っていましたが、実際には時間が足りないぐらい様々な施設を見学できました。

また、あまりチームビルディングや料理教室のような体験プログラムは提供する側だったので、実際行って見て、自社の商品はもっと工夫が必要と感じました。何も奇をてらった商品でなくても、工夫をするだけで充分に楽しいものになると感じました。

今後様々な国の方々に沖縄の文化を感じていただけるような、プログラムを作りたいと思いました。

その土地で、外から新しく何かを持ってくるのではなく、その土地ならではのおもてなしがとても大切で、ゲストも求めていると強く感じました。

そのまま真似できるものではございませんが、沖縄の風土、地元の風土を今一度学習しながら求められているものが何なのかを見極め、商品作りを心がけていきたいと考えております。

タイは世界中から観光客が訪れており、皆その国のテーマ性を楽しんでいると感じました。

今回の研修を参考に弊ホテルで今後何ができるか考えてみると、ハード面(施設)では大きな差があり、沖縄としても、弊ホテルとしてもその差はすぐに埋めることは出来ないが、ソフト面(スタッフ)では色々出来るのではないかと思います。

例えば、ホテル内でのチームビルディングを弊社スタッフが行なったり、名護市と連携して海を使ったアトラクションをホテル滞在のアイテムとして活用する等があると思います。

ただ泊まるだけでなく、ホテルでの滞在を楽しんでもらうために、スタッフのエンターテインメント性を伸ばすことを今後考えていきたいと思いました。

今回、MICE 施設訪問はもちろんです、普段お話をする機会が少ない皆さんとお話しが出来、とても充実した視察研修を過ごす事ができました。ホテル側から見た MICE のあり方や、

現在、MICE に関わっている方からの与那原町に建設予定の MICE 施設の事など、漠然としたイメージが、研修中、現実的なものへとシフトしていくのが分かりました。

JTB タイ支店での訪問では、担当者の方が『沖縄では MICE で来て頂いたお客様に何か出来ませんか?』と言われた事、深く心に残っています。タイでは MICE で来たお客様が買い物をした際に一定の金額までの免税があり、それが+@となり、タイでの誘致に繋がっていると仰っていました。沖縄と似た環境の国が複数ある中で、MICE の誘致に繋げる為には、今ある気候やエンターテイメントだけではなく、他の競合先に負けない+@を見つけ出すのが必要だと感じる事ができました。

私自身、ホテル業に勤めており、直接的な MICE の受入は行っておりませんが、地元、沖縄南部の活性化の一つとして、何らかの形で今後、MICE に関わっていければ良いと考えております。

今回研修に参加させて頂き、タイの MICE 先進事例を学ぶことができ大変勉強になりました。

タイでは国際会議 MICE の誘致に関して、明確なセールスポイント（冒険、豪華さ、世界基準の会場など）とそれに対応できるプログラムや施設がしっかりと整備されていることが、最も印象に残りました。

沖縄の場合はセールスポイント（参加者が元気になれる、気候が温暖など）は決まっているものの、タイと比較するといまいちインパクトに欠けるといえるのか、まだテーマがぼやけていると感じます。

PEACH の方がおっしゃったように「Why come to Japan(Okinawa)?」、主催者、参加者が沖縄に来ることによってどのようなメリットがあるのか、沖縄の強みを更に明確にし、そのテーマ、目標に向かって MICE、観光に関わる人々の意識を統一する、ことが重要ではないでしょうか。

会場側としては、設備の面ではタイの大型施設を真似るのはなかなか難しいですが、視察対応や会場セッティングの仕方はとても参考になりました。どこの会場に行っても「Welcome Okinawa MICE」のサインがあり、ウェルカムの姿勢とおもてなしの心が感じることができました。また会場のセッティングについても、テーブルクロス、イスカバー、装花が、タイの南国らしい鮮やかな色合い（青や黄色、オレンジなど）を使いながらも統一感がありました。これまでタイに対して洗練されたイメージを持っていなかったのが、期待を上回る思いでした。

演出の仕方については、タイの温暖な気候を活かした屋外空間でのパーティー（プールサイド、屋上でのパーティー）や、水上マーケットやロータスを再現した演出など、日頃は思いつかないような斬新なアイデアを数多く学ぶことができました。またブルーエレファントでの料理教室、市場見学は、沖縄でも直ぐに実践できそうなプログラムで、自分たちの身近にも参加者の方がおもしろいと感じるプログラムのヒントがたくさんあるのではないかと改めて考えるきっかけとなりましたし、沖縄は独自の文化を多く持っておりますが、それを参加者が魅力的と感じるアレンジがまだ不十分だとも感じました。

現在万国津梁館では年数回内覧会を開催しており、その際に会場のショールームや実際のパーティー事例についてプレゼンを行っておりますので、まずは視察対応や会場セッティング、魅力的なイベント開催など、自分たちが変えられることから一つ一つ改善していきたいと考えております。

この度はこのような意義のある研修に参加させて頂き、誠にありがとうございました。

初のタイ訪問となり、これまでの熱帯のビーチリゾート、仏教（お寺や仏像等）、タイ料理といったイメージとは異なった一面にとにかく驚かされるが多かった。タイには、観光事業とは別に MICE 等コンベンションに特化した TCEB という組織と TICA という民間の組織が連携して MICE 誘致を行っており、バンコクにおいては、30 分圏内に大型 MICE 施設が 4 つ程あるが、どの施設もある程度の稼働率を維持しているということだった。バンコクだけでもこれほどの規模の MICE が多数開催されているということは、沖縄県内に計画されている MICE 施設も受入体制をきちんと整え上手に PR することで、世界中の富裕層や観光客が集まる可能性もあることを感じた。

国際会議の開催地となると、会場施設だけではなく、その周辺へも大勢の海外からの会議参加者（観光客）が訪れることになるため、観光施設等でも受入できる施設を整え、提供できるメニューを充実させ、何度来ても楽しい体験ができるという受入体制づくりが不可欠だと感じた。もちろん海外からのお客様が多く想定されるため、多言語対応は必須であり、英語だけではなく中国語・韓国語などのアジア圏の言語が最低限求められるかと思うが、沖縄においてその対応に向けた人材育成はまだまだ不十分ではないかと思う。私自身、観光事業に関わり、外国語でコミュニケーションがはかれることの大切さを強く痛感しており、今回も新たためて実感した。

また、今回の視察を通して、沖縄市の伝統芸能エンターテインメント「綾宮の宴」や東南植物楽園のチームビルディングなど、既存のメニューの可能性を感じることができた。これらを多言語対応・ブラッシュアップさせ、効果的に PR することで、多くの経費をかけずとも多くの方に認知・体験いただくことができるかと思う。

地域・施設・民間・行政等が連携し盛り上げていくことで、効果的な展開・機運醸成が図れるようにすすめていきたい。

27 年前、19 歳の時に 2 週間タイ北部でボランティア活動をしテント生活を送ったが、それ以来のタイ訪問だった。昔と変わらない水上住宅。そしてその隣には超高層ビルが林立している。ASEAN の中でも急成長を遂げるバンコクの発展ぶりを目の当たりにし衝撃を受けた。

今回は MICE の先進地視察というのが主目的であったが、各施設の視察のほか、様々なアクティビティーやユニークベニューの見学、またプログラム等により、インセンティブツアーの要素も実体験することができた。実際に多くの施設を見学し多く学んだと同時に、私自身のモチベーションは向上し、さらにチームビルディングの手法なども体験できたことは大きな収穫であった。

現在、沖縄市のホテルや観光施設等の多くはキャパやバンケットルーム等、制約条件があり、実際のところ直ちに大型 MICE を受け入れるということは厳しい状況にある。しかしながら、音市場や東南植物楽園等、施設やホテルのキャパシティに応じた MICE は受け入れが可能だと思われる。特に社員研修やインセンティブツアーは十分対応可能であり、単価も高く魅力的である。

そうしたハード面での課題のほかに、ソフト面での課題も浮き彫りになった。特にタイ人の明るく笑顔での接客、おもてなしについて、果たして沖縄市は徹底できているかどうか、検証し改めて学ぶ必要がある。また、英語の学習機会も必要である。タイの方々は難しい英語を流暢に話しているというよりも、平易な英語をわかりやすく話しているという印象であった。そうしたソフト面でのサービスという点において、タイと沖縄では、特にインバウンド客への対応に対してまだまだ差があるように感じられた。

沖縄市においては、ライブハウス等を中心としたナイトタイムエコノミーの振興が必要である。それを分かりやすく多言語で情報発信する必要がある。また、今春オープン予定のエイサー会館も外国人にも見て頂けるコンテンツとして新たな観光スポットになるはずであり、今後はそうし

た既存の地域資源をICTを活用して情報発信していくことが肝要である。

MICEには大型施設の整備等、時間も費用もかかるものもあり中長期的なビジョンが必要になってくる。また本市の場合、2020年には1万人収容のアリーナの完成を予定していることから、それを活用したMICEの受け入れに向けたプロモーションを供用開始前に仕掛けていく必要がある。

そうしたもののほかに、既存施設を活用し、さほど費用もかけずに実施可能なものもある。現在、本市では修学旅行生を中心としたまち歩きを積極的にエージェントや県外の学校へ提案しているが、経済効果で言えば、MICEの方がより効果的である。そのため、今後は積極的に営業を行う必要があり、そのためにも、多言語でプレゼン資料等も整理する必要がある。

最後に、今回の研修では、DMC沖縄の徳田社長はじめ、徳田玲子さん、さらにOCVBの川崎さん、山城さんに大変お世話になった。特に、充実した研修メニューのコーディネートに感謝申し上げます。

沖縄（琉球）とタイ（シャム）との交流の歴史は500年以上前に遡るが、当時、琉球王国が期待するほどの成果は乏しく、先人たちは大変な苦勞をしたようである（高良倉吉『琉球の時代』ちくま学芸文庫）。その後時を経て、今では泡盛はタイ米で作られるようになった（新里酒造の泡盛をお土産として持参し何人かにお渡しした）。帰国後も、楽しい研修を振り返りながら関係者の皆さまに感謝しつつ泡盛を飲んでいきます。本当に有難うございました。

今回タイの視察研修を通して、自分がインバウンド観光客目線でのいろいろな経験できたことは、とても参考になった。また、タイの観光的な部分で印象深かったのは、パタヤ市の朝、ホテルの外で見たビーチでのマリネジャーの賑わいや街中で良くみられた屋台、マッサージ店など、どれもそれぞれが観光資源となり、観光によって地域が潤うという観光の理想的な形だと思った。JTBタイ支店の方より沖縄にタイの方を呼び込むためにはとの質問に対し、ドラックストアや家電量販店があれば文句はないという回答があった。実際その通りだと思うが、タイと比較して寂しい感があり、沖縄観光の課題性を感じた。

この度は、視察研修の企画・運営をしていただき、ありがとうございました。

MICE先進地であるタイの視察はとても勉強になりました。

浦添市は次年度、アフターMICEメニューの開発を予定しており、その開発において今回の視察はとても勉強になりました。リゾートホテルのない浦添市においては、アフターMICEメニューの開発がMICE誘致において重要になってくると考えており、今回の視察では、料理体験・チームビルディングなどメニュー開発の際に参考になるような行程も含まれていてとても勉強になりました。

また、MICE施設の見学では、会議室、展示会スペース、待合室など実際に大規模なMICE受入をする場を見学させていただき、大規模なMICE開催のイメージをすることもできました。

今後、MICEメニューを開発し、浦添市にリゾートホテルなど施設も整備された後も、今回の研修を参考にMICE誘致に向けて事業者と連携・協力して取り組んでいきたいです。

今回の研修は、ASEAN諸国で国を挙げてMICE誘致を推進しているタイ王国を訪問し、実際に施設を視察することができ大変有意義でした。この研修で感じたことは、提供できるコンテンツがMICE誘致のため重要であるということでした。誘致にあたっては、空港からのアクセスの交通網などのインフラ整備、利便性の向上からAfter MICEまで、充実したコンテンツが提供

できる施設が立地していること（ハード面の整備）は、もちろんですが、この地で MICE を開催するのにどのような利点があるのか、選ばれる理由、強み（ソフト面の強化）も不可欠だと感じました。

これからの業務のなかで、ニーズを踏まえて、選んでもらえるような強みを作っていくこと、マーケティング力の強化を図っていくような施策の企画、展開をしていきたいと考えています。

研修旅行当日まで、研修内容がよくわからない部分が多かったので、できれば所属入りの参加者名簿の配布や事前説明会等を開催していただければよかったかなと思います。Hard Rock Hotel チームビルディングは、実施の趣旨がよく見えず、海外での視察研修で行う内容であったか疑問に感じました。タイ料理教室(Blue Elephant)体験についても MICE 参加者等へのアトラクションプログラムの事例ということであったかと思いますが、すべてのプログラムを体験する必要性はなかったのではないかと思います。Blue Elephant のサイトを見ると会議会場としても活用されているようですので、利用者や利用方法などのお話が聞ければよかったと思います。

最後になりますが、今回の視察に関しては、OCVB の担当者様、コーディネートしてくださった DMC 沖縄の皆様に大変お世話になりました。あらためて感謝申し上げます。

MICE 施設だけでなく、MICE 誘致には欠かせないユニークベニューや体験プログラムを視察することができ、とても充実した研修だった。

政府が積極的に MICE 誘致を行っている点が、沖縄県と OCVB が MICE 誘致に力を入れている状況と似ていると感じており、市町村行政は何ができるのか、どのように関係したほうが良いか等まだまだ手探り部分が多いため、タイでの MICE 誘致における市町村行政の在り方や実際に受入れている施設などの民間企業側からの市町村行政の在り方についてのアドバイス等がもう少し詳しく伺えると良かった。

空港から、最初の目的地パタヤまでの移動時間が長く感じられ、MICE 施設として機能できているのだろうかという疑問に思い、通訳さんへ確認しました。通訳さんいわく「世界規模、世界が相手なので、2時間の移動は、長い距離ではない」とのことでした。愚問ではありましたが、沖縄県では、空港から2時間といいますが、北部に向かえば辺戸岬まで到達してしまうような感覚なので、立地的な不便さがあるのではないかと考えていましたが、到着した実際のパタヤは、不便さを感じるどころか、延泊を希望したいほど、魅惑的な街でした。

今回のタイの施設はどの施設も、あまりにも規模が違いすぎましたが、視察した施設等は素晴らしいものでした。宜野湾市においての MICE 振興のために、どのような特色を打ち出していくかが課題ではありますが、DMC 沖縄、OCVB の花城さん、川崎さん、また、ご一緒に参加しました皆様とのネットワークを大事にし、宜野湾市のみならず、沖縄県全体の MICE 振興のために頑張っていこうと思います。

今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

今後沖縄にも与那原、西原に県内では最大の MICE 施設が建設されますが、タイの施設はあまりにも規模が違いすぎて…、そのまま参考にするということは無理なような気がしました…。規模ではどうしても太刀打ちできませんので、沖縄や日本の特殊性を活かした MICE の誘致というものを考えていかないといけないと感じました。

今回の研修では視察した施設やその敷地、近辺についてはとてもきれいで素晴らしかったのですが、街中の環境はとても良いとは言えず、日本の治安や環境衛生の良さなども強く感じるこ

ができました。初めて乗ったトゥクトゥクは10倍の金額を取られたし（あまり日本ではできない体験だと思いました…）、ゴミと匂いもきついところも多々ありました（ついでに言えばパクチーの匂いも辛かったです）。

沖縄のMICE振興のためには他の海外とは違う、私たちの地元の治安や環境衛生の良さ、そしておもてなしの心、さらには歴史や文化などの特色を打ち出していく必要があると考えました。そのためには私たち自身が地元の良さに気づき、また歴史文化をしっかりと熟知する必要があると感じさせてくれた研修となりました（ありきたりな意見になってしまいすみません…）。

初の海外ということで…、当初不安もありましたが、DMC 沖縄、ビューローの花城さん、川崎さんの案内のおかげでスムーズに研修に参加することができました。また一緒に研修に参加しました皆様も気さくな方ばかりで、とても楽しい5日間となりました。まことにありがとうございます。せっかくできた皆さんとの関係なので、今後もその繋がりを大事にしたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひします。ありがとうございました。

県・OCVB 参加者

はじめてのタイでしたが、まず欧米人の多さにびっくりしました。

日中のアクティビティーも豊富だが、飲食を含む夜のアクティビティーがかなり充実しており、賑わいの創出の仕方は今後の大型MICE施設周辺のまちづくりの参考にしたい。

多くの民間事業者がMICEによるビジネスモデルを確立していた。県内においてもMICEは儲かる、ビジネスチャンスだということを経験してもらおう事が大事だと感じた。

リゾートMICEとして沖縄のポテンシャルは全然負けていないと感じたので、MICEの誘致やPRをもっと頑張りたいと思った。

大型MICE施設建設予定地周辺のウォーターフロント開発でタイのチャオプラヤ川等の視察を活かせそう。

海外の施設を視察するのは初で、非常に貴重な研修だった。商談やセミナーなどセールスに行く時は、沖縄のPRしかないの、海外の先進地と比較して沖縄がどの位置にあるのかということは、これまであまりピンとこなかったが、今回の研修を通し、先進地と相当かけ離れていることを実感した。現在、沖縄のMICE施設の中で最大のコンベンションセンターが、とても小さく感じられるほどに感覚が変わった。

パタヤのビーチでは、パラセーリングが盛んに行われていたり、観光客向けのクルーザーが何十隻も停泊していたり、パラソルやハンモックのレンタルが何十、何百とずらっと並んでいたり、観光客が多いことに伴って事業者数もとても多く、とにかく受け皿が多いことに圧倒された。薄利多売のイメージもあるが、これもインセンティブ旅行など団体客で人気の理由の一つなのだろうと感じた。

今回の視察全体を通して、私は民間と行政（国や地方自治体）の分業の大切さを感じました。行程中に視察した大規模コンベンション施設やホテルはどれも民間企業が建設から運営まで行っていると聞き、それだけMICE事業というものが商機を見いだせる、ビジネスチャンスがある業界だと認識されており、事実その成果を出しているのだと感じました。そして国や自治体はその施設やサービスをキーの一つとして、全世界にタイでのMICE実施をアピールすること、また、正

確に MICE 受入の実態調査を行うことに注力しているという理想的なロールモデルを実際に見て体感することができ、大変勉強になりました。沖縄県、ひいては日本という国自体でそういった完全な分業はまだまだ難しいとは思いますが、私の立場としてまずは今ある沖縄の素材を適宜お伝えし、「なぜ沖縄でないのだめなのか?」「沖縄なら何ができるのか?」を伝えていけるよう常に考え工夫していきたいです。

また、タイの視察先のご担当者様は皆さん笑顔で迎えてくださり、タイ語や英語、日本語でも対応してくださったりとそのおもてなしのクオリティーの高さに大変感心しました。人材育成担当として、県内の事業者の方々にも自分たちの施設・サービス・コンテンツに自信をもち MICE 取り入れに貪欲に取り組んでいただけるよう、MICE の重要性・必要性を伝えていくための活動を引き続き頑張っていきたいと思えます。

8. 考察

タイのような沖縄の競合地になりうる先進地の視察は、幅広い視点で MICE 産業について考える機会を参加者に与え、今後沖縄の MICE 産業を支えていく人材育成に役立つと考える。

今回の研修参加者は、民間事業者と行政職員（国際会議観光都市 4 市、沖縄県）で構成され、それぞれの業務フィールドと興味関心の対象が異なるため、カリキュラムの構成には、次の配慮を施した。

- 1) 民間事業者が自社に持ち帰り、MICE 商品開発のヒントとなるアクティビティの体験。
- 2) 街（エリア）として景観演出に取り組む価値を体感できるアクティビティの体験。
- 3) 沖縄県が計画している大型 MICE 施設の規模感を体感できる施設の視察。
- 4) 沖縄に不足しているといわれる夜のエンターテインメントの体験。
- 5) タイの MICE 誘致・受入関係者との情報交換
- 6) 地方自治体の政策立案に活かせるヒントが得られる訪問先の選定

参加者アンケートの結果から、各参加者の参加目的は満たされ、研修目標を達成できたと考えられる。民間事業者は、自社に持ち帰る多くの気づきを得られ、商品開発・インスペクション対応方法・顧客接遇方法等、帰社後すぐにでも改善を始める意欲を示している。行政職員は、都市政策・官民連携・MICE 戦略等に活かせるヒントを得られた。

参加者の多くは、本研修を通して、MICE 主催者や参加者の視点を持つとともに、タイの先進事例から沖縄に活かせる情報を得ることができた。競合先進地を知ることで、座学研修で学んだ「DESTINATION・ファースト」の重要性を再認識でき、各施設のプロダクト開発や同ブラッシュアップが、沖縄全体の MICE 戦略と一体的に進められる必要を実感する機会を提供できた。沖縄の競合地は他にも多数あるので、今後もこのような視察が継続的に行われることが望まれる。

株式会社DMC 沖縄
代表取締役 徳田博之